

高校生らしさとは～将来の校則の在るべき姿を見据えて～

社会班：阪井友芽、堀田花虹

Abstract

The purpose of this study is revealing what high school student-likeness is. The experiment shows that people's way of thinking about high school student-likeness differ much by generation and their positions. Therefore this study concludes that high school student-likeness cannot be completely defined and with the changing times, school rules no longer required should be abolished and school rules prohibit something considered as no high school student-likeness in any position.

要約

本研究の目的は、「高校生らしさ」とはなにかを明らかにすることである。実験によって、「高校生らしさ」についての捉え方は時代と立場によって大きく異なることがわかった。従って、本研究では「高校生らしさ」とは一概に定められないものであり、時代の変化とともに必要のなくなった校則は廃止すべき、どの立場でも高校生らしくないと考えられたものを禁止する校則は残すべきということが結論づけられた。

1. はじめに

我々が通っている高津高校では染髪や装飾品、私服登校等が許されているが、他の高校では「高校生らしくない」という理由で禁止されているものがほとんどだ。そこで「高校生らしさとはなにか」という疑問を持ち、この研究に至る。

2. 研究手法

アンケートを作成し、得られた結果を元に「高校生らしさ」に関する考えを観点別に分析し、「高校生らしさ」とは一概に定められないという仮説の検定を行い、今後の校則問題についての解決策を考える。

《アンケートの主な内容》

- ①高校生らしくないと思う見た目の項目
- ②中学、高校で違和感を感じていた校則
- ③校則について偏値差が関係していると思うか

《3つの観点》

- ①地域での違い
- ②立場間での違い
- ③今と昔の校則の在り方の違い

3. 結果

《①地域での違い》

ほとんど見られなかった。

《②立場間での違い》

メイク・カラーコンタクトレンズを高校生らしくないと答えた割合は、保護者・教員の回答が生徒の回答の約10倍であった。体のラインがわかる服・高価な服・染髪は、どの立場でも高校

生らしくないという回答が多かった。また、生徒では校則に関して偏差値が関係しているという回答が、他の立場の3倍であった。違和感を感じていた校則を時代に沿って無くすべきという意見は9割であった。

《③今と昔の校則の在り方の違い》

時代に沿って廃止された校則はあるが、靴下・髪型・下着の色の指定など、未だ残されている校則もあった。

⇒アンケート結果から、時代と立場により考え方が異なる点が多いため、仮説は立証できたと見える。

4. 考察

昔から多くの人が違和感があると感じていた校則が今も残されているのは、高校生らしさ以外の理由があるのではないかと考える。体のラインがわかる服は実際に高津高校でも指摘されるものであり、どの立場でも高校生らしくないという回答が多いため、禁止してよいと考える。メイク・カラーコンタクトレンズについては三者の立場間での捉え方が大きく異なることから、双方の意見を取り入れるよう努め、社会へ出ていくために備えた準備という点でも校則を変えていくべきだと考える。

5. 結論

このアンケートの結果から、「高校生らしさ」という点において、今も昔も多くの人が違和感を感じる校則である、靴下・下着の色・髪型の指定などは廃止し、染髪や体のラインがわかる服などは多くの人が高校生らしくないと考えるため、禁止する校則を残すべきだという考え方も理解できる。そして、今の時代、校則や指導が緩くなっていくにつれ重要なことは、自分自身で自由の程度を考えられる力を身につけることだと考える。

6. 参考文献ならびに参考Webページ

文部科学省.生徒指導提要～校則について

①②.2010-03.https://www.mext.go.jp/content/20210624-mext_jidou01-000016155_002.pdf,(参照 2024-12-11)